

世帯と人口

(5月1日現在)

世帯	45,267	(+169)
人口	120,336人	(+116)
男	61,301人	(+47)
女	59,035人	(+69)

広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

大谷八幡宮下の道祖神を撮影する写楽会メンバー 下：正面から見た道祖神



えびな模様

一瞬を写真に刻み後世へ

物事は日々移り変わるもの―海老名のまちなみも同様です。今回のえびな模様は、「変わりゆく一瞬を止め、後世に伝えよう」と写真を撮り続け、市内の道祖神92カ所138基すべてをフィルムに収めた「写楽会」(小野田留蔵会長・7人)を追いかけました。

道祖神138基を撮影し地域に貢献

道祖神は、村境をはじめ峠や辻、橋のたもとなどで、外からの災いを防いでくれる神を祭ったもので、後に行路の神・旅の神の信仰が加わったといわれ、本市では江戸時代から昭和初期まで造られました。当時の人々は五穀豊穡、夫婦円満、無病息災、交通安全、学業成就など様々な願い事を聞き入れてくれる万能の神として崇めていました。

本市の道祖神は、近隣の座間市(36基)、綾瀬市(54基)に比べても非常に多く、県内では6番目に多い地域です。これは昔から水に恵まれた耕地と多くの集落があった証といわれています。詳細は昭和63年に発行された『海老名の道祖神』(篠崎信執筆、市教育委員会発行)で、写真と共に由来などが記されていますが、同書の発行から10年以上が経過し、道祖神の風化が進んだことにより手直しを施されたり、土地形状の変更により移設されたりして、状況が一部変わってしまいました。カメラ片手に市内を連日のように撮影している写楽会のメンバーはこうした現状を目の当たりにし、道祖神の撮影を思い立ちました。

「高齢者趣味の教室OBが集まった写楽会ですが、メンバーも平均年齢80歳になり、みな元気なうちに地域に恩返しをしようと話し合ってたんですよ」と、小野田さん。点在する道祖神を7人のメンバーで分担し、約2カ月かけて撮影しました。

「男女二神が並び立っている双体像が目につきました。子宝や縁結びの神様であったりもするんですよ。写真を撮っていくうちに興味がわき、文献や地元の人々との話しが広がり、市史にも詳しくなったメンバーもいるとか。」「身近な歴史を振り返ることで、現代人が忘れていたものを取り戻すきっかけがあるんじゃないかと思うよ。メンバーが撮った写真がその契機になれば、やった甲斐があるってもんですよ」とも。

市教育委員会では、これらの写真とレポートの寄贈を受け、今後の展示や資料作成に生かしていく予定です。

人々の願いを一手に引き受け、心のよりどころとなって地域に根付いた道祖神。時代は変わり、今では石塔のみが当時の面影を残す地域もあります。みなさんも、自宅近くの道祖神を出発点にして、「92カ所巡り」の探訪にスタートされてはいかがでしょう。